



- ・データ連携基盤（ダッシュボード）の創出
- ・以上を安全安心な形で実装するためのセキュリティの確保

今後取り組むべき施策として、  
先進的な取り組みを希望する自治体と意欲的な民間企業との連携を促し、  
次世代の校務 DX に関するモデルケースの創出などを掲げています。

過渡的な取り組みとして、できるところから校務の情報化を積極的に進め、  
教職員の負担軽減などにつなげる必要があるとしています。

例えば、会議資料のペーパーレス化や、クラウドツールを活用して、  
保護者への連絡・情報交換を実施することなどが挙げられています。

文部科学省は、校務での ICT 活用場面が増えることは、  
教職員の ICT リテラシーを高められるため、ICT を活用した授業などで  
良い効果を与えられるのではないかと考えられるとしています。

▼GIGA スクール構想の下での校務 DX について  
～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～  
[https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt\\_jogai01-000027984\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_jogai01-000027984_001.pdf)

◇◆ トピックス (2) .....  
文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」を公表  
.....◆◇

文部科学省は 3 月 31 日、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」  
(COCOLO プラン) を公表しました。

令和 3 年度の調査によると、小・中・高等学校の不登校数が、  
約 30 万人に急増しています。

そのうち 4.6 万人の小・中学生が、90 日以上の不登校であるにも関わらず、  
学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていないことがわかりました。

以上の結果を踏まえ、文部科学省は、不登校により学びにアクセスできない  
子供たちをゼロにすることを目指し、COCOLO プランを取りまとめました。

COCOLO プランでは、以下の取り組みを行います。

- (1) 不登校の児童・生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

- ・不登校特例校の設置を促進する
- ・落ち着いた空間で学習・生活できる校内教育支援センターの設置を促進する
- ・教育支援センターの機能を強化する など

(2) 心の小さな SOS を見逃さず、「チーム学校」で支援する

- ・一人1台端末を活用して、心や体調の変化の早期発見を推進する
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが専門性を発揮して連携し、最適な支援につなげる
- ・相談窓口を整備し、一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援する など

(3) 学校の風土の「見える化」をとおして、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

- ・風土などを把握するためのツールを整理し、全国に提示する
- ・学校で過ごす時間の中で最も長い授業を、子供たちの特性に合った柔軟な学びにできるよう改善する
- ・いじめなどの問題行動に対する毅然とした対応の徹底する など

文部科学省は、今後、こども家庭庁や地方公共団体と連携し、一人一人に応じた多様な支援をしていくことを掲げています。

▼誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLO プラン）

[https://www.mext.go.jp/content/20230331-mxt\\_jidou02-000028870\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230331-mxt_jidou02-000028870_2.pdf)



★☆☆ 情報セキュリティ事故の発生状況（2023年4月11日調査）

- ☆☆★ (1) 紛失・置き忘れ：8件 (2) 誤配布：3件 (3) 誤掲示：3件
- (4) 誤送信：1件 (5) 盗難：1件 (6) 不正アクセス：1件

☆☆★ >> <https://school-security.jp/leak/>

2023年3月7日～2023年4月10日に合計17件の事故が発生しました。  
 情報セキュリティ事故の内訳と概要（都道府県名、公表日、組織区分、漏えい経路・媒体、個人情報数）は以下の通りです。

(1) 紛失・置き忘れ

鹿児島県 2023年3月7日 私立高等学校 USBメモリ 296件

新潟県 2023年3月9日 国立大学 USBメモリ 1,128件

大阪府 2023年3月17日 府立特別支援学校 USBメモリ 延べ48件

徳島県 2023年3月24日 小学校 USBメモリ 不明

大阪府 2023年3月24日 府立高等学校 書類 240件

愛知県 2023年4月6日 市立小学校 書類 不明  
静岡県 2023年4月6日 町立保育園・保育所 USBメモリ 159件  
埼玉県 2023年4月10日 県立高等学校 書類 239件

(2) 誤配布

大阪府 2023年3月24日 府立高等学校 書類 1件  
新潟県 2023年3月28日 県立高等学校 書類 2件  
新潟県 2023年3月29日 県立高等学校 書類 2件

(3) 誤掲示

福岡県 2023年3月15日 市教育委員会 不明 3,256件  
熊本県 2023年3月30日 県立高等学校 インターネットサービス・アプリ 38件  
大阪府 2023年4月7日 市立中学校 インターネットサービス・アプリ 234件

(4) 誤送信

静岡県 2023年3月10日 県立高等学校 電子メール 12件

(5) 盗難

富山県 2023年3月27日 県立高等学校 書類 46件

(6) 不正アクセス

奈良県 2023年3月29日 国立大学 電子メール 3,727件

※以下の参考サイトをもとに、学校、公的教育機関、関連組織で発生した情報セキュリティ事故の内訳と概要を掲載しております。事故の詳細は、上記に記載されている項目を検索するなどして、ご確認をお願いいたします。

参考サイト：

373news.com/ScanNetSecurity/大阪府ホームページ/Security NEXT/徳島県ホームページ/  
徳島新聞電子版/名古屋市公式ウェブサイト/函南町公式ホームページ/静岡県ホームページ/あなたの静岡新聞/  
埼玉県ホームページ/産経ニュース/新潟県ホームページ/熊本県教育委員会ホームページ/NHK NEWS WEB/  
ScanNetSecurity/ニュースサイト「毎日新聞」/西日本新聞 me/富山県ウェブサイト など



□【3】 学校 ICT・セキュリティコラム



---

◆不易と流行の視点で考える一人1台端末の活用◆

山梨大学 准教授 三井一希

---

GIGA スクール構想により、各校に一人1台端末と高速ネットワーク通信の環境が整った。文部科学省は、一人1台端末は令和の学びのスタンダードだとしているが、児童・生徒は授業の中でどの程度端末を活用しているのだろうか。令和4年度全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか。」と質問紙調査を実施した。その結果、「ほぼ毎日」と回答したのは、小学校で26.9%、中学校で22.4%であった。「週3回以上」は、小学校で31.5%、中学校で28.9%であった。鉛筆やノートと同様の文具としての活用というには、程遠い数値ではないだろうか。さらに、「月1回未満」と回答した児童・生徒も、小・中学校でそれぞれ5%程度いた。これはせっかく整備された端末をほぼ活用していない状況であることを示している。

これらのことから、インターネットに接続された端末を活用して、さまざまな情報を収集したり、それらの情報を整理・分析したり、分かりやすくまとめたりする経験をたくさん積み、力をつけている児童・生徒と、そうではない児童・生徒の差が大きく広がっていくことが危惧される。教育の機会均等が第一義的な目標である義務教育において、これは看過できない状況である。原因はさまざまであろうが、教師の考え方が端末の活用にブレーキをかけている状況もある。

かの俳人松尾芭蕉は俳諧の理念として「不易流行」を掲げた。先日、ある研修会において、この言葉を使っていた教師がいた。アナログが「不易」、デジタルが「流行」だとした上で、デジタルのような流行に踊らされるのではなく、不易こそが教育の本質であるので、端末の活用には懐疑的だ、といった趣旨の発言をしていた。

不易流行とは、「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと」(三省堂 新明解四字熟語辞典)である。不易と流行は相反するものではない。

新しく変化を重ねているものを取り入れていくことで、  
本当に大事な不易が実現しやすくなることもある。  
例えば、一人一人の子供を大事にしたい、一人一人に力をつけたい、  
といった思いは教師ならば誰もが持っているだろう。  
時代を超えて普遍的なこうした教師の思いを不易とするならば、  
デジタルツールがあることで、教師の手元で一人一人の様子を  
リアルタイムに把握しやすくなったり、  
AIドリルで一人一人の理解度に応じた問題が出しやすくなったりする。  
不易として大事にしたいことは、  
実は流行を取り入れることで、より近づくこともできる。

教師の考え方がアクセルとなり、児童・生徒が一人1台端末を  
日常的に活用して力をつけていくことを願っている。

#### ◆ 執筆者プロフィール ◆

山梨大学 教育学部・准教授。博士（学術）。  
山梨県公立学校教諭、台北日本人学校（台湾）教諭、常葉大学講師等を経て現職。  
専門は教育工学（特に学びのデジタル化、授業デザイン）。  
文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー等を務める。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

……◆◆ 【最新版】「個人情報漏えい事故の発生状況調査報告書」を公開 ◆◆……

ISEN では、2022 年 11 月 18 日に「令和 3 年度 学校・教育機関における個人情報漏えい  
事故の発生状況」調査報告書（第 2 版）を Web 公開しました。

>> [https://school-security.jp/leak\\_all/](https://school-security.jp/leak_all/)

---

<事務局>

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会（ISEN）

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 2 階（株式会社 JMC 内）

<https://school-security.jp/>

---

▽「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が  
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、

下記フォームよりご連絡ください。

<https://fs220.xbit.jp/y592/form3>